interview

前廣　美保　先生

社会福祉専攻の実習では
教科書通りに現場は回っていない
ということを学びます。

●まえひろ・みほ

武蔵野大学通信教育部人間科学部
社会福祉専攻　准教授
ソーシャルワーク学士
社会福祉学修士
一般社団ありあけ舎代表理事

先生が社会福祉の分野に興味を持ったきっかけは？

私はそもそも生まれ育った家が、経済的には豊かだけれど祖父や父がお酒を飲んで周りに迷惑をかけるなど機能不全な面をもつ家族環境でした。それを母や祖母が支える姿を見ながら育ったことは私の人生に大きな影響を与えています。

高校生の時に、国連が開発途上国の女性や子供たちの貧困、特に識字教育がされていないことで差別される状況を訴えているのを知りました。「この人たちを助けなければ」という使命感にかられ、アメリカの大学に進学し、ソーシャルワークを学びました。

後に私の中にある「人を助けたい」という思いは「自分自身を助けたい」という気持ちの表れだと気づきました。子供の頃の自分が家庭の中で抱えていた「怖いよ」「助けてよ」「嫌だよ」といった感情がキャリア選択の根本にあったんだなと。どんな仕事をするにしても自分自身が本質的に生きることを選ばなければ、それは見せかけに過ぎないのです。自分の内なる満たされない部分に気づくことが重要です。それを、いつも、学生など関わる方々から学びながら伝えています。

育児をしながら掛け持ちした、社会福祉士としての歩み

アメリカから帰国してすぐに地元の老人ホームに就職しましたが、アメリカで学んだ権利意識に基づいたソーシャルワークの考え方と日本の現場とのギャップになじめず、すぐに退職して大学院に進学しました。

その後は子育てをしながら安定した職に就くことが難しく、様々な仕事を掛け持ちしていました。心の電話相談員、小規模作業所、非常勤講師、障がい福祉課など、多い時には１日に５か所で働き、子供が熱を出せば車に乗せて施設を訪問したり、ベビーシッターを連れて授業をしたり。子育て中の母親が働くことの困難を身をもって感じました。

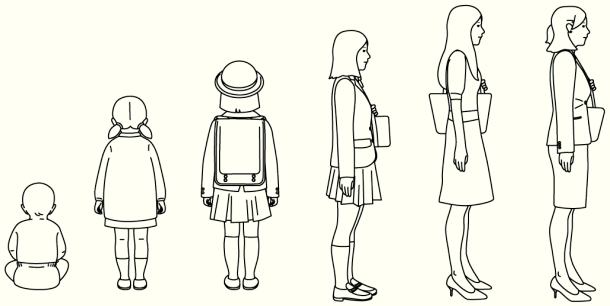
社会福祉士の資格を取得した後は講師としての仕事が増えました。日本社会事業大学での実習助手や非常勤講師を経て、現在の武蔵野大学での教職に至っています。

学びを仕事に活かすには？

社会福祉専攻の実習では、教科書通りに現場は回っていないという現実を目の当たりにすると思います。学びのプロセスの中で自分と向き合う時間をたくさん取り、自分を信じる力を育てることが大事です。

うちの学生さんたちはやる気に溢れた方が多くて評判が良く、実習先にそのまま就職される方も毎年いらっしゃいます。

皆さんにお伝えしたいのは、自立してくださいってことです。自分が何をしたいかを明確にし、自分で現場に立って活躍できる、そんな人になってほしい。自分と向き合い、自分自身を好きになって、自分のことを認められる人になれたら、国家資格があってもなくてもあなたは大丈夫です。

前廣先生

ありがとうございました